

陶器窯である日下部窯からは、物原からではあるが、同時代に創業していた浦富焼の碗が複数出土している。この場合は技術的な関係というよりも同時代の陶磁器を検討する意味で貴重な資料となる。

- 3) 信楽陶器の全国への広がりについては滋賀県文化財保護協会の畑中英二氏にご教示をいただいた。
- 4) 土瓶の注ぎ口先端には、伊賀・信楽系では中央の長い三本の線が入るが、染付の急須にみられる。ほかに、伊賀・信楽系の御神酒徳利に出石と同様の松の絵付けをもつもの、釉については、伊賀・信楽系のハケ目状の芯の滑り止めをもつ器形に石州系の緑灰色の釉を施すもの、石州系の芯受けの切込みをもつ器形に伊賀・信楽径の乳白色の釉を施すものなど、生産地では見られない、窯の生産体制を象徴している製品も散見される。
- 5) 窯記号については私見として、「セ」字は人名というより「石州」の頭文字との想定を示しておきたい。「輪違い」については、因久山窯の印にあり、同時期の窯道具の「型」に同じ「輪違い」文がはいる。時期的にも五代與平の長女ふじの主人又は長男六代梅藏の時代で、幕末から明治前半頃の間にあたる。ただし時期的な幅もあるため、両者の関係は明らかではない。
- 6) 吉成窯の製品については、伝世資料のほか、鳥取県立博物館に表採資料が所蔵されており、実見させていただいた。
- 7) 因久山については以下の文献を参考にした。また因久山の資料については、芦澤良憲氏が窯付近の物原から掘り出した資料を実見させていただいた。日下部窯の出土品には図示していないが「黒楽碗」を意識した碗が焼成されており、日下部のものは因久山を映したものと理解する。また、浜坂焼との関わりにおいても、幕末から明治期にかけての因久山の存在が大きいものと考えられる。
 蘆澤良憲 2001「鳥取城御庭焼因久山名品選」
 蘆澤良憲 2008「鳥取城御庭焼因久山之歴史」
 蘆澤良憲 2009「鳥取城御庭焼因久山焼名品選」
- 8) 出石焼については、兵庫県立歴史博物館に山口コレクションを実見させていただいた。また、岡田章一氏、鈴木敬二氏、豊岡市教育委員会の潮崎誠氏にご教示をいただいた。
- 9) 出石、浦富、浜坂の分類についてはすでに述べた(八峠2012)。浦富が出石とは離れて独自の染付を発展させたのに対し、浜坂では基本的には出石から逸脱しているものは確認できていない。浦富よりもより出石的ではあるが、三者を分類することは各々特色をもつもの以外は困難である。
- 10) 本論は浜坂焼が主体のため日下部については詳述しないが、日下部窯では瓦生産に始まり壺甕類や徳利、鍋・鉢など石州系の丸物が主体であるが、因久山焼と同じ手の黒楽碗のほか、伊賀系の土瓶などを焼いている。日下部窯の時期は幕末期の10年程の間に限られ、同じ時期に浜坂の伊賀・信楽系も焼かれていること、因久山焼にも同じ時期に信楽工人の記載が認められることから、三窯の間に何らかの関係が存在していたことは容易に推測できる。この問題については今後検討を行いたい。

【引用・参考文献】

- 岡本久彦・山口久喜 1984「但馬のやきもの」船田企画
 吉田璋也ほか 1970『因州 浦富窯の紹介』岩美町教育委員会
 鳥取県 1973「6 近世資料(因府録・鳥府志)」『鳥取県史』
 鳥取県 1976「7 近世資料(因府年表ほか)」『鳥取県史』
 鳥取県 1977「13 近世資料(在方諸事控V)」『鳥取県史』
 鳥取県 1978「12 近世資料(在方諸事控IV)」『鳥取県史』
 平田正典 1979「石見粗陶器史考」
 鳥取県 1981「5 近世文化産業」『鳥取県史』
 鳥取県教育委員会 1984「第2章 調査の結果 4. 窯業遺跡」『鳥取県生産遺跡分布調査報告書』
 吉田政博 1981「鳥取のやきもの」『日本やきもの集成〔8〕』平凡社
 近藤京嗣 1981「北関東のやきもの」『日本やきもの集成〔1〕』平凡社
 谷本光生 1981「信楽の民窯」「伊賀の民窯」『日本やきもの集成〔6〕』平凡社
 水野九郎衛門 1981「越前・若桜のやきもの」『日本やきもの集成〔4〕』平凡社
 高鶴元 1982「上野・高取」『日本やきもの集成〔12〕』平凡社
 三谷巍 1982「窰(ウツロ)谷の窯跡」『鳥取県立博物館研究報告 第19号』
 鳥取県教育委員会 1984「4. 窯業遺跡」『鳥取県生産遺跡分布調査報告書』
 水野信太郎 1991「第三編 陶磁器工業 第四章 発達期(庚)山陰方面」『日本窯業史総説第五巻』柏書房株式会社
 鳥根県教育委員会 1992「仁右エ門山遺跡」「相生遺跡」『石見空港建設予定地内遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書』
 鳥取市教育委員会 1994「鳥取市埋蔵文化財分布図」
 国立歴史民俗博物館 1997「国立歴史民俗資料館研究報告第73集 近世窯業遺跡データ集成」
 兵庫県立歴史博物館 1998「収蔵資料目録6 山口コレクション—古出石焼—」
 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1999「古市遺跡II」
 東森晋 2001「第5章 まとめ」『石見焼関連遺跡調査報告1(飯田A遺跡・長東坊師窯跡)』鳥根県教育委員会
 八東町教育委員会 2004「日下部窯跡発掘調査報告書」
 佐伯純也 2007「鳥取・鳥根地域における生産と流通」『江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通 中国・四国・関西編』
 八峠興 2010「鳥取市浜坂窯(ウツロ谷の窯跡)について～焼成品の概要～」第1回山陰近世考古学研究会
 財団法人鳥取市文化財団 2011「鳥取城粉蔵跡(第20次調査)発掘調査報告書」
 鳥取陶磁器研究会 2012『浦富焼窯跡出土陶片の紹介』、八峠興「総括 第1節 浦富焼窯跡について—吉田コレクションから—」標準土色帳 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修
 カラーチャート 制作 株式会社ジーイー企画センター・発行 DIC グラフィック株式会社

文献資料

【1】『鳥取藩史』第六卷 殖産商工志 四 陶器

陶器は、宝永年中作州の陶工、鳥取椿谷に於て、皿・茶碗・玩具等を焼き出したるが、何れも楽焼の薬を用い、墨絵の笹を画き、灰色又は鬱紺色を呈せり。然れども、性質軟弱にして、使用に堪えず。陶工、僅に二竈を焼きて去れりとの事あるも、是は単に試製にして、未産業というべからず。是後、幕末に近き頃久能寺・浜坂等にて盛に陶器の産出あり、藩は、これを国産座の扱として、他国品を逐わんとするに至れり。鳥府志下上椿谷焼物

…… 中略 ……

浜坂壺焼

邑美郡浜坂壺焼の起源は詳ならず。思うに、国産奨励の意にて、吉成廃業の後を受けて、始められたるが如し。文政六年八月、当時国産座の門番なりし、亀蔵といへる者を壺焼棟梁に命ぜらる。蓋し此頃なるべし。其成績状況等知るべからず。同八年三月産物方仕法改正により御手懸止となりければ、翌年四月亀蔵も棟梁を罷免せられき。是年十二月五日夜、右焼物場出火焼失の事あり。この後、網屋孫兵衛なる者に同所拝借を許され、同人の経営する所なりしも、資金に困難を生じたるより、十年十月同所を返上せり。かくて経営者もなきより、廃止するに決し、敷地を村方に返付し、建物其他を入札売却すべく、蠟座奉行明石源之丞に命ありしが、其十二月、先づ三年間前記亀蔵に同所拝借を許可せられき、この後の事今明ならねど、思うに、幾もなく止みたるならむ。御国日記

安政二年十月に至り、国産御用懸松屋文五郎倅喜助、浜坂傍示かつなみといえる地にて、白地焼物製造を試みたき旨、御国産座長役に願出を許され、製造を始めしが、次第に製品の産出あり、経営の方法も定まれるより、三年二月願い出で、御国産御手懸となれり。然れども、人力製造を以てしては不利なるより、長年五月覚寺川筋に水車場を設け、水力製造となし、当時覚寺煙硝場の移転せる地所を充用すべく願出で許さる。是より製造の業いよいよ良好にして、四年三月に至り、同所の焼物売買差支なくなりし為、店方入用の分は、すべて同所の頭取松屋喜助に注文することなし、因州分のみは焼物の他所仕入禁止を達せられたり。尋で五年には、伯州分の他所仕入をも停止せらる。こは浜坂窯業の盛なりし為のみにはあらざるも、同所製品の豊かなりしにも依るなり。翌年六月再び他所仕入を許されし後も、引き続いて製陶は行はれをりて、この頃には、江州職人をも同所に聘用し居たりき。諸事控書抜

…… 中略 ……

輸出入の状況

陶器の輸出入に就て、其初何等の規定もあらざりしが、安政初年に及びては、福井・久能寺・浜坂・加露等より製品を出せるより、同三年十月御国産長役の申請に基づき、在・町とも他国陶器商人の来りて売買するを禁ぜられき。次で翌四年三月因幡に於ける他所仕入を差止めしが、五年九月には、伯耆にも右同様布達し、輸入を堅く止め、唯壺類など止むを得ざるもののみ、特に願出により入津を許さるゝ事となれり。御国日記
安政五年九月廿七日 御国日記

焼物類、先達而御兩國共、他所入津御差留被成候之處、浜坂焼始、其外共追々多分出來致し候付、伯州分も因州分全様、他所仕入御差留、残之品者、来三月限売捌候様、尤壺類差支候はゞ、願出候上、入津被成御免候旨、郡代御船手江申渡之。(下略)

右にいへる壺類の事は、主として浜坂の産出多きため、かくは令せらしなれど、事實は、供給不十分ならざりしより、翌六年六月国産座仕法改正により、松屋喜助の御売頭取は、其俵存置するも、他国品を望む者は、勝手に仕入るゝを許されき。而して、他品は、全く藩内自給の方針なりしも、これとて、藩内製品のみにては十分ならず、商人より員数を定めて、他所仕入を願出づるを常とす。左の例によりて知るべし。御国日記

…… 中略 ……

元治元年八月、国産座縮小に当り、久能寺・福井・浜坂の焼物、皆御手懸止めとなり。すべて民業となれり。

【2】『日本窯業史総説』第五卷 陶磁器四

(寅) 因幡國

當國に陶窯少からずと雖ども、多くは幕末頃の創業に係り、中には經歷の稍二長きものもあるも、要するに、附近の用に充つべき日用雑器の類なるのみ。(當地方は明治時代の郡村併合により、新舊地名の對照を要するものあり。)

…… 中略 ……

(二) 邑美郡湯所村(後の鳥取市湯所町) 松屋治三郎は、曾て但馬國出石郡出石町竹田屋伊八に就きて製磁法を学び、文久三年に帰郷す。時に出雲國の工人来るに會し、共に鳥取藩主の命を受け、同郡濱阪村(岩美郡中ノ郷大字濱阪)の古窯跡に新窯を築く。此跡は往昔、筑前高取の工人來り陶する所なり。爾後、因、伯、数所の土質を試み、中に就きて、當國岩井郡(岩美町)田後に産する田底土の適合なるを以て、遂に製陶に従事するも、出入償はず、三年にして廢す。治三郎罷めず、更に岩井郡海士村(服部村海士)の土を用いて楽焼を製し、以て今に至るといふ。(以上ともに、明治十八年の陶工傳統誌による。)

【3】「控帳」

控帳 安政三年五月二十七日

浜坂焼物製し方、人力にては日々不益相立ち候に付、覚寺村川筋へ水車掛けさせ、小屋建て致したき旨、尤も川筋焰硝製場、この節場所替えに相成り候に付、右地所丈ヶ御渡し儀共、御国産方長役に申し達し候趣、裏判所取調べの上、その通り承り届け、尤も右場所取り片付け次第、御買上げ直段を以て、御払い相成り候に付、裏判御吟味役申し談じ、宜しく取り計らい候様、右長役へこれ申し渡す。

控帳 安政四年閏五月十一日

但州出石職人七味屋平八と申す者、浜坂焼物御手始めの節、御呼び寄せ相成り居申し候処、この節漸く道付き候に付、この度差返し候旨、御国産長役にこれ申し達す。

観察表凡例

胎土（色調は標準土色帳及びカラーチャートに拠る）
 ①砂粒のみ ②長石・砂粒を含む ③黒雲母・砂粒を含む（赤色粒を含むものあり） ④長石・黒雲母・砂粒を含む（石英を含むものあり）
 ⑤白色粒・砂粒を含む ⑥礫や小石を含む ⑦細砂を含む ⑧細かな黒色粒（黒雲母か）・細砂を含む ⑨細かな石英・細砂を含む ⑩細かな黒色粒・石英、細砂を含む

磁器（釉）

A：灰白色 N8/ B：灰白色 N7/ C：灰白色 2.5GY7/1 D：灰白色 5GY8/1 E：明オリーブ灰色 2.5GY7/1 F：明オリーブ灰色 5GY7/1 G：明緑灰色 7.5GY8/1 H：C5～10% I：C5～10, Y5～10% J：Y5～10% K：C5～10, K5～10%
 （呉須）
 a：C5～30% b：C40～60% c：C70～100% d：C70～100, K5～30% e：C70～100, K40～60% f：C70～100, K70～100% g：C40～60, K5～30% h：C40～60, K40～60, M5～30% i：オリーブ灰色 2.5GY5/1～6/1 j：オリーブ灰色 5GY5/1～6/1 k：暗オリーブ灰色 2.5GY5/1～6/1 l：暗オリーブ灰色 5GY5/1～6/1

陶器（釉）

01：灰白色 7.5Y8/1～7/2 02：灰白色 5Y8/1～7/2 03：灰白色 2.5Y8/1～7/1 04：灰白色 10YR8/1～7/1 05：灰白色 7.5YR8/1～8/2 06：灰色 N6/～3/ 07：灰色 7.5Y6/1～4/1 08：オリーブ黄色 7.5Y6/3 09：灰オリーブ色 7.5Y6/2～5/3 10：暗オリーブ色 7.5Y4/3 11：オリーブ灰色 2.5GY6/1～5/1 12：オリーブ黒色 7.5Y3/1～2/2 13：黄色 5Y8/6～7/8 14：淡黄色 5Y8/3～8/4 15：淡黄色 2.5Y8/3～8/4 16：黄灰色 2.5Y6/1～4/1 17：黄褐色 2.5Y5/3～5/6 18：にぶい黄褐色 10YR7/2～6/4 19：褐灰色 10YR6/1～4/1 20：灰黄褐色 10YR6/2～4/2 21：黒褐色 10YR3/1～2/2 22：灰褐色 7.5YR6/2～4/2 23：褐色 7.5YR4/3～4/1 24：にぶい褐色 7.5YR7/3～5/4 25：暗褐色 7.5YR3/3～3/4 26：にぶい赤褐色 5YR5/3～4/4 27：明赤褐色 5YR3/2～3/6 28：黒褐色 5YR3/1～2/2 29：赤色 10R5/6～4/8
 （文様）
 30：灰白色 N8/ 31：灰色 7.5Y6/1～4/1 32：灰オリーブ色 7.5Y6/2～5/3 33：オリーブ灰色 2.5Y6/1～5/1 34：オリーブ黒色 7.5Y3/1～2/2 35：黒色 N1.5/ 36：暗褐色 10YR3/3～3/4 37：黒褐色 10YR3/1～2/3 38：赤褐色 2.5YR4/6～4/8 39：浅黄色 7.5Y7/3

第3表 陶磁器観察表 (1)

No.	位置	種類 焼成	器種	陶土	釉調	絵付	口径 長さ	器高 厚さ	底径 幅	備考
1	I -4-C 壁近く	陶器 やや良	碗	①	10	—	※12.0	△2.8	—	
2	I -F-C 壁近く	陶器 良	碗	①	07	文様 :36	—	△2.7	—	
3	I -4房 右側トレンチ	陶器 素焼き	鉢	①	—	—	※14.0	△2.8	—	
4	I -2-L 3房側	陶器 やや良	小坏	③	02	—	—	△2.8	※2.9	
5	I -2-C 6房中央	陶器 良	鉢	③	11	文様 :33	※14.1	△5.2	—	
6	I -F-C 壁近く	陶器 素焼き	植木鉢	①	—	—	※18.0	△2.0	—	
7	I -F-R	陶器 良	鉢	①	08	外底 :22	—	△5.9	—	
8	I -F-R	陶器 良	鉢	①	08	文様 :30	—	△3.9	—	
9	I -2-L 上方	陶器 素焼き	鉢	①	—	—	—	△2.9	※4.3	
10	I -4房 右側トレンチ	陶器 素焼き	鉢	③	—	—	—	△1.6	※9.9	
11	I -5-C	陶器 素焼き	大皿	①	—	—	—	△1.8	※6.2	
12	I -4房 右側トレンチ	陶器 素焼き	大皿	③	—	—	—	△1.7	※7.8	
13	I -F-R	陶器 やや良	大皿	①	19	—	—	△1.5	※4.8	
14	I -4房 右側トレンチ	陶器 素焼き	中皿	①	—	—	—	△1.5	※4.6	
15	I -4-R 壁の外側	陶器 良	中皿	②	01	文様 :39	—	△1.5	※4.8	
16	I -5-C	陶器 素焼き	小皿	①	—	—	※9.9	2.7	※5.3	
17	I -5-C	陶器 素焼き	小皿	①	—	—	※9.7	2.8	※5.3	
18	I -2-L	陶器 良	輪花小 皿	③	16	文様 :30-37	※9.1	2.1	※4.7	
19	I -2-L 3房側	陶器 良	小皿	①	07	—	※9.8	△1.4	—	
20	I -3-C 壁近く	陶器 良	小皿	①	15	—	※10.0	△2.3	—	
21	I -4房 右側トレンチ	陶器 良	小皿	①	07	—	※10.0	1.6	—	

第4表 陶磁器観察表 (2)

No.	位置	種類 焼成	器種	陶土	釉調	絵付	口径 長さ	器高 厚さ	底径 幅	備考
22	I -3-C 壁近く	陶器 良	小皿	②	01	—	—	△1.4	※4.8	
23	I -4-C 壁近く	陶器 良好	段重蓋	②	29	—	—	△0.9	—	型作 別窯か
24	I -2-L 上方	陶器 良	段重身	①	10	—	—	△2.4	—	口紅
25	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	08	—	8.4	1.7	3.2	
26	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	08	—	8.4	1.7	3.8	
27	I -5-C	陶器 良	灯明皿	③	15	—	8.4	1.7	4.0	
28	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	15	—	8.8	2.0	3.8	
29	I -5-C	陶器 やや良	灯明皿	①	15	—	8.6	1.7	4.2	
30	I -5-C 壁近く・壁下	陶器 良	灯明皿	①	08	—	※9.0	2.0	※2.8	
31	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	16	—	※8.9	△1.4	—	
32	I -4房 右側トレンチ	陶器 やや良	灯明皿	①	01	—	※9.0	1.8	※4.3	
33	I -2-L 上方	陶器 良	灯明皿	②	11	—	※10.1	2.2	※4.2	
34	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	03	—	※10.1	2.4	※5.5	
35	I -3-C 下方	陶器 良	灯明皿	④	19	—	※9.8	△2.1	—	
36	I -3-C 下方	陶器 やや良	灯明皿	①	01	—	※9.9	△1.5	—	
37	I -4-R 壁の外側	陶器 良	灯明皿	①	02	—	※10.0	2.2	※5.5	
38	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	02	—	※9.8	2.5	※5.3	
39	I -3-C 下方	陶器 良好	灯明皿	①	01	—	※10.0	1.7	※4.1	
40	I -2-L 3房側	陶器 良	灯明皿	④	26	—	9.9	2.5	4.5	
41	I -5-C	陶器 良	灯明皿	②	03	—	10.4	2.2	4.5	
42	I -2-L 3房側	陶器 良	灯明皿	②	18	—	※9.8	2.2	4.3	
43	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	11	—	10.2	2.3	4.3	
44	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	01	—	10.4	2.5	4.4	
45	I -3-C	陶器 良	灯明皿	①	11	—	※9.9	1.9	※3.9	
46	I -4-C 壁近く	陶器 やや良	灯明皿	①	18	—	※10.8	△2.2	—	
47	I -5-C	陶器 良	灯明皿	①	23	—	※9.9	1.7	※4.7	
48	I -2-L 3房側	陶器 良	灯明皿	②	02	—	※10.0	2.1	※4.6	
49	I -5-C	陶器 良	灯明皿	②	02	—	※10.0	2.2	※4.5	
50	I -5-C	陶器 良	灯明皿	②	05	—	※10.1	2.2	※5.4	
51	I -5-C 壁の下	陶器 良	灯明皿	④	11	—	※10.9	2.0	※5.4	
52	I -F-R	陶器 良	灯明皿	①	01	—	※9.8	△1.4	—	
53	I -F-R	陶器 良	灯明皿	①	07	—	※9.7	△2.3	※5.1	
54	I -2-L	陶器 不良	灯明皿	⑤	16	—	※10.0	△1.7	—	別窯か
55	I -2-L	陶器 不良	灯明皿	⑤	16	—	—	△0.9	※3.3	別窯か
56	I -F-C 壁近く	陶器 素焼き	徳利	③	—	—	※5.3	△2.6	—	
57	I -F-C 壁近く	陶器 素焼き	徳利	③	—	—	—	△13.7	—	
58	I -5-C 壁近く	陶器 素焼き	徳利	①	—	—	※4.7	△6.0	—	
59	I -F-R	陶器 良	徳利	⑤	11	—	3.9	△9.1	—	別窯か
60	I -5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	①	—	—	※4.0	△6.3	—	
61	I -5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	③	—	—	※3.9	△4.3	—	
62	I -2-C 6房中央	陶器 良好	徳利	①	04	—	※3.2	△3.3	—	
63	I -5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	③	—	—	※4.4	△2.8	—	
64	I -5-C	陶器 良	徳利	①	04	文様 :39	—	△12.0	※12.3	

第5表 陶磁器観察表(3)

No.	位置	種類 焼成	器種	陶土	釉調	絵付	口径 長さ	器高 厚さ	底径 幅	備考
65	I-5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	①	-	-	-	△ 6.8	※ 10.8	
66	I-F-C 壁近く	陶器 素焼き	徳利	③	-	-	-	△ 3.3	※ 12.0	
67	I-F-C 壁近く	陶器 良	徳利	①	22	-	-	△ 2.6	※ 9.8	
68	I-5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	①	-	-	-	△ 2.7	※ 11.1	
69	I-5-C 壁近く・壁下	陶器 素焼き	徳利	①	-	-	-	△ 2.1	※ 10.8	
70	I-5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	③	-	-	-	△ 1.1	※ 10.0	
71	I-5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	①	-	-	-	△ 1.1	※ 10.4	
72	I-5-C 壁の下	陶器 素焼き	徳利	①	-	-	-	△ 1.2	※ 10.8	
73	I-5-C 壁近く・壁下	陶器 素焼き	徳利	①	-	-	-	△ 1.2	※ 10.3	
74	I-2-L	陶器 良好	徳利	①	11	-	-	△ 5.9	-	
75	I-F-C 壁近く	陶器 素焼き	徳利	③	-	-	-	△ 4.4	-	
76	I-F-R	陶器 良	徳利	①	外: 16	内: 07	-	△ 2.2	-	
77	I-F-R	陶器 良	徳利	①	17	文様: 31	-	△ 4.2	-	
78	I-F-C 壁近く	陶器 良	徳利	③	08	文様: 32	-	△ 5.8	-	
79	I-F-R	陶器 良	徳利	①	07	文様: 39	-	△ 3.7	-	
80	I-F-C 下方	陶器 良	徳利	①	外: 08	内: 21	-	△ 6.1	-	
81	I-3-C 下方	陶器 良	徳利	④	08	文様: 39	-	△ 7.7	-	
82	I-F-C 壁近く	陶器 良	徳利	③	08	文様: 39	-	△ 1.4	-	
83	I-3-C 下方	陶器 良	徳利	④	17	文様: 39	-	△ 6.2	-	
84	I-F-C 壁近く	陶器 良	徳利	③	21	文様: 39	-	△ 4.8	-	
85	I-2-L 上方	陶器 良好	徳利	①	08	文様: 39	-	△ 12.5	-	
86	I-2-L 上方	陶器 良好	徳利	①	08	文様: 39	-	△ 10.2	-	
87	I-2-L 上方	陶器 良好	徳利	①	08	文様: 39	-	△ 6.3	-	
88	I-F-C 壁近く	陶器 良	徳利	③	01	文様: 39	-	△ 7.9	-	
89	I-F-C 壁近く	陶器 良	徳利	①	01	文様: 35	-	△ 3.8	-	
90	I-F-C 壁近く	陶器 良	徳利	①	01	文様: 34	-	△ 3.1	-	
91	I-F-R	陶器 素焼き	中型徳利	③	-	-	-	△ 2.8	※ 8.6	
92	I-F-R	陶器 良	中型徳利	①	18	-	-	△ 5.8	※ 6.8	
93	I-F-R	陶器 良	中型徳利	①	外: 15	内: 23	-	△ 2.7	-	
94	I-F-R	陶器 良	土瓶蓋	③	07	文様: 39	※ 9.1	△ 2.6	※ 11.5	
95	I-4-R 壁の外側	陶器 良	土瓶蓋	③	02	文様: 35・39	9.2	△ 2.2	8.7	
96	I-F-R	陶器 良	土瓶蓋	③	14	文様: 37	※ 7.4	△ 1.9	※ 9.7	
97	I-1-C 7房中央	陶器 良好	土瓶蓋	①	03	文様: 33	※ 10.8	△ 2.7	※ 8.6	
98	I-1 中央	陶器 良	土瓶蓋	①	18	文様: 30	※ 10.0	△ 0.7	-	
99	I-F-R	陶器 良	土瓶蓋	①	05	文様: 35	※ 10.0	△ 1.9	-	
100	I-1-C	陶器 良	土瓶蓋	①	07	文様: 33・39	※ 9.6	3.6	1.7	
101	I-3-C	陶器 良	土瓶蓋	①	07	文様: 35	※ 8.8	2.6	1.6	
102	I-4-R 壁の外側	陶器 良	土瓶蓋	①	07	-	※ 9.8	△ 0.9	-	
103	I-1-C	陶器 良好	土瓶蓋	①	11	-	※ 10.5	△ 1.1	-	
104	I-3-C 下方	陶器 良	土瓶蓋	③	-	-	※ 8.8	△ 1.3	-	
105	I-3-C 下方	陶器 良	土瓶蓋	①	-	-	※ 9.0	△ 1.5	-	
106	I-3-C 下方	陶器 良	土瓶蓋	②	08	-	※ 8.3	△ 0.9	-	
107	I-3-C 下方	陶器 良	土瓶蓋	④	08	-	※ 8.2	△ 2.0	-	
108	I-3-C 下方	陶器 やや良	土瓶蓋	④	02	-	※ 8.4	△ 2.4	-	

第6表 陶磁器観察表(4)

No.	位置	種類 焼成	器種	陶土	釉調	絵付	口径 長さ	器高 厚さ	底径 幅	備考
109	I-F-R	陶器 良	土瓶蓋	①	-	-	-	△ 1.1	-	
110	I-5-C	陶器 素焼き	土瓶蓋	①	-	-	※ 7.0	△ 2.1	-	
111	I-5-C	陶器 良	土瓶蓋	⑤	無釉	-	10.6	2.8	5.6	別窯か
112	I-4-C 壁近く	陶器 不良	土瓶蓋	①	-	-	※ 14.0	△ 2.5	-	
113	I-3-C 下方	陶器 良	土瓶蓋	①	19	-	※ 11.5	2.7	※ 4.3	
114	I-F-R	陶器 良	土瓶蓋	①	無釉	-	※ 11.1	△ 2.6	※ 4.8	
115	I-3-C 下方	陶器 良好	土瓶蓋	③	無釉	-	※ 10.9	2.3	※ 3.0	
116	I-F-R	陶器 良	土瓶蓋	①	22	-	※ 10.0	△ 2.3	-	
117	I-4房 右側トレンチ	陶器 良	土瓶蓋	①	10	-	※ 10.8	△ 1.7	-	
118	I-F-R	陶器 良好	土瓶蓋	④	26	-	※ 12.1	△ 2.7	-	
119	I-5-C	陶器 良	土瓶身	①	27	-	※ 9.7	△ 2.5	-	
120	I-7-C 1房中央	陶器 良	土瓶身	③	02	文様: 32	-	△ 1.7	-	
121	I-3-C 壁近く	陶器 やや良	土瓶身	①	08	文様: 30	-	△ 2.8	-	
122	I-F-C 下方	陶器 良	土瓶身	①	外: 14	内: 07	-	△ 5.2	-	
123	I-6-C 壁近く	陶器 良	把手	③	19	-	-	△ 3.7	-	
124	I-1房 中央	陶器 良	土瓶身	①	08	-	-	△ 2.0	※ 4.1	
125	I-4-C 壁近く	陶器 やや良	行平蓋	①	20	文様: 38	-	△ 2.2	※ 2.1	
126	I-4房 右側トレンチ	陶器 やや良	行平蓋	①	20	文様: 38	-	△ 1.9	※ 4.3	
127	I-F-R	陶器 素焼き	行平蓋	①	-	-	-	△ 1.6	※ 5.2	
128	I-4房 左側トレンチ	陶器 不良	行平蓋	②	04	文様: 38	※ 18.8	△ 2.6	-	
129	I-F-C 壁近く	陶器 良	行平身	①	08	-	※ 19.5	△ 3.3	-	
130	I-F-R	陶器 良	行平身	①	08	-	-	△ 2.1	-	
131	I-3-C 下方	陶器 良	把手付鍋	①	11	-	※ 17.7	△ 5.7	-	
132	I-4-C 壁近く	陶器 良	鍋	①	-	-	※ 23.6	△ 2.7	-	
133	I-F-R	陶器 良	片口鉢	⑤	11	流し: 24	-	△ 8.1	※ 8.9	別窯か
134	I-5-C 壁の下	陶器 素焼き	香炉	①	-	-	-	△ 2.9	-	
135	I-5-C 壁の下	陶器 良	播鉢	①	19	-	※ 32.1	13.2	※ 15.8	
136	I-5房 右側トレンチ	陶器 良	播鉢	②	25	-	※ 35.0	△ 7.7	-	
137	I-5房 右側トレンチ	陶器 良	播鉢	①	21	-	※ 30.0	10.5	※ 14.0	
138	I-6-C	陶器 良	播鉢	①	21	-	※ 33.4	△ 9.7	-	
139	I-5房 右側トレンチ	陶器 良	播鉢	①	21	-	※ 32.6	12.0	※ 17.2	
140	I-4-R 壁の外側	陶器 良	播鉢	②	04	-	※ 25.4	△ 5.2	-	
141	I-4房 右側トレンチ	陶器 良	播鉢	①	19	-	-	△ 10.8	※ 14.8	
142	I-5房 右側トレンチ	陶器 良	播鉢	①	19	-	-	△ 9.5	※ 13.3	
143	I-5房 右側トレンチ	陶器 良	播鉢	②	20	-	-	△ 7.4	※ 12.0	
144	I-7-C	陶器 素焼き	播鉢	③	-	-	-	△ 10.0	-	
145	I-7-C	陶器 素焼き	播鉢	③	-	-	-	△ 9.3	-	
146	I-F-C 壁近く	陶器 良	中型徳利	①	無釉	-	-	△ 7.7	-	
147	I-F-C 壁近く	陶器 良	中型徳利	①	無釉	-	-	△ 6.2	-	
148	I-F-R	陶器 不良	御神酒徳利	①	13	文様: 37	-	△ 9.3	4.1	
149	I-F-R	陶器 良	御神酒徳利	①	02	-	-	△ 3.3	-	
150	I-F-R	陶器 良	御神酒徳利	①	23	-	-	△ 5.2	※ 4.1	
151	I-F-C 壁近く	陶器 素焼き	花器	③	-	-	-	△ 2.8	-	